

セゾンエアコン 据付説明書・電気配線工事説明書

FDEVP (セゾンインバータ) 40Z～160Z

PFA012D600

〈ご注意〉

- 下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。
- 油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）
熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
 - 腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性がある場所。
熱交換器の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
 - 病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。ノイズ発生によるコントロールの誤動作の原因となります。
 - 潮風が当たる所（海浜地区）。外板、熱交換器の腐食の原因となります。
- 下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
 - アースを取ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は誤作動や感電の原因になることがあります。
 - 漏電ブレーカーの取り付けが必要です。漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電や火災の原因となる場合があります。
 - エアコンの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。据付けに不備があるとユニットの落下によるケガや振動及び運転音増大の原因になります。
 - 冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度（0.3kg/m³）を超える恐れのある場合は、窒息防止のために隣室との間の開口部やガス漏れ検知警報と連動する機械換気装置等の取付けが必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

〈お願い事項〉

- 取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
- 長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご説明ください。
- 電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖まらない	

据付のまえに

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
- 工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様

確認してください

配管・配線・小物部品

付属品

① ドレン関係

1	ドレンホース		1 個	ドレンホースクランプ付
2	断熱材		1 個	ドレンホースクランプ用
3	固定金具		1 個	ドレンホース用
4	ねじ (M4)		2 個	固定金具取付用

③ 本体吊り込み用

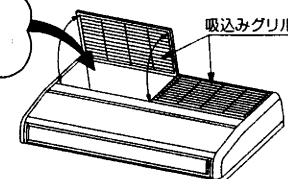
1	平座金		8 個	ユニット吊り下げ用
---	-----	---	-----	-----------

② フレアナット部断熱用				
1	パイプカバー		1 個	ガス側用
2	パイプカバー		1 個	液側用
3	バンド		4 個	

④ 本体据付関係				
1	型紙		1 個	

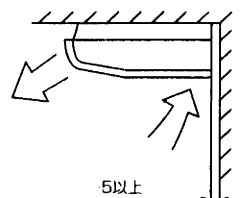
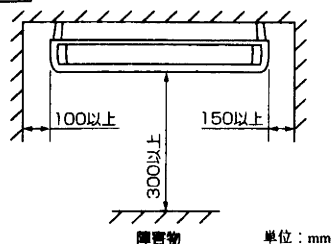
付属品収納場所（梱包時）

左記に示す付属品①～③は
この中に収納されています。



据付場所の選定

室内機据付スペース



1. 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

- 冷風または温風が十分行きわたる所。
据付高さが3mを越えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をお勧めください。
 - 室外への配管、配線のしやすい所。
 - ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
 - 直射日光の当たらない所。
 - 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。（天井埋込で据付ける際に、ユニット天面に断熱材を貼付ける等、高湿度の所に据付けられる場合は本体の断熱等、露付に対する配慮をしてください。）
2. 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら、板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

ユニットの搬入、据付

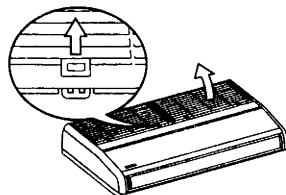
搬入



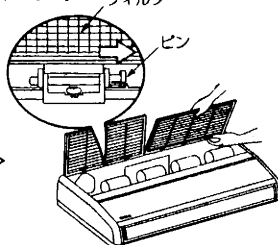
- 搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないよう注意してください。
(注) サイドパネル、吹出ルーバ等、プラスチック部分を持たないでください。
- 解梱後、ユニットを置く場合は、必ずユニット床面側を上にして置いてください。

据付前の準備

- 吸込みグリルを取り外してください。ストッパー (4箇所) をスライドさせてください。

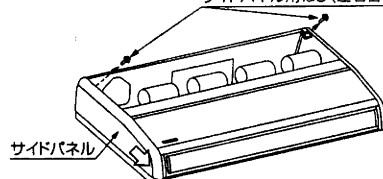


ピン (4箇所又は6箇所) を抜いてください。

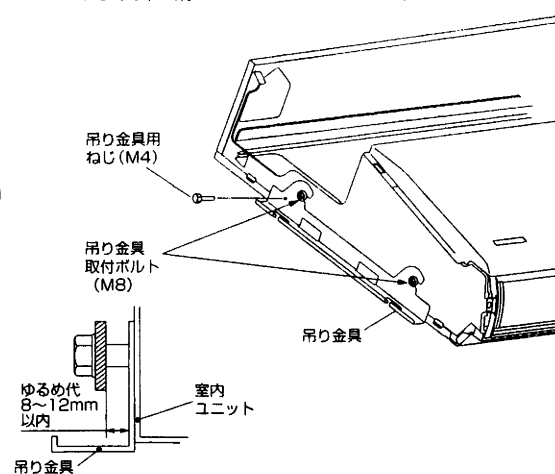


- サイドパネルを取り外してください。ねじを外し、矢印方向にスライドさせてください。

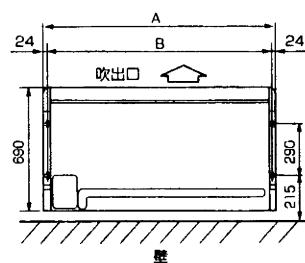
サイドパネル用ねじ (左右各1個) (M4)



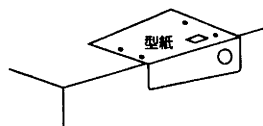
- 吊り金具を取り外してください。ねじを外し、取付ボルトをゆるめてください。



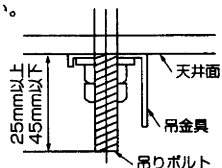
吊りボルトの位置



- 付属の型紙を目安にして、吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトの設置と配管用の穴あけを行なってください。
- 位置決定は、実測により行なってください。
- 位置決定後、型紙は取り外してください。



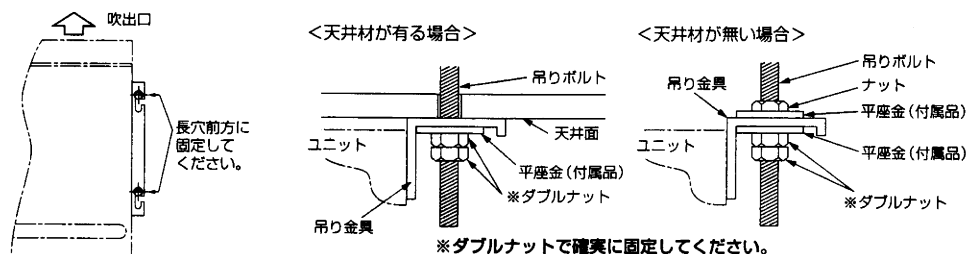
- 吊りボルトの長さは下記寸法を厳守ください。



単位: mm

ハイパーインバータ	40, 45	50~80	112~160
標準機	40~56	63~80	112~160
A	1070	1320	1620
B	1022	1272	1572

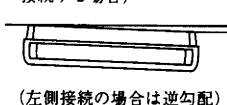
据 付 ●吊り金具を吊りボルトに固定してください。



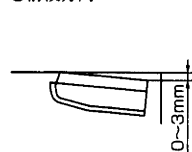
ドレン水の流れをよくするためユニットを排水側に下り勾配を設け据付けてください。

●左右方向

(図は右側にドレンホースを接続する場合)



●前後方向



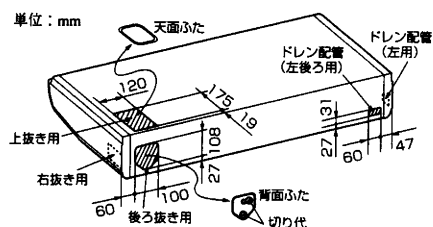
⚠ 逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。

冷媒配管 は室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

配管位置



配管取り出し位置

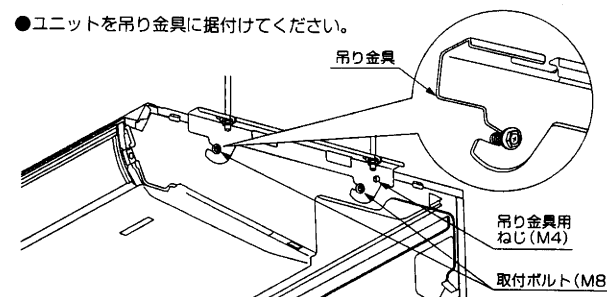


配管取り出しは3方向より行えます。

穴はニッパ等により切り落としてください。背面ふたは切り代に従って配管取り出し穴を切り抜いてください。天面ふたは配管位置に合わせて切り抜いてください。また、配管据付後、埃などが侵入しないよう、すきまをパテなどでふさいでください。

(ユニット内への埃の侵入防止およびエッジ部での配線損傷防止のため、背面・天面ふたは、必ず取付けてください。)

●ユニットを吊り金具に据付けてください。



- (1) 吊り金具前方より、ユニットをスライドさせ、ボルトを引っかけてください。
- (2) 取付ボルト(M8)を左右4箇所確実に締め付けてください。
- (3) ねじ(M4)を左右2箇所締め付けてください。

⚠ サイドパネルは、前から後方へ向け引っ付けた後、本体に確実にねじ止めしてください。

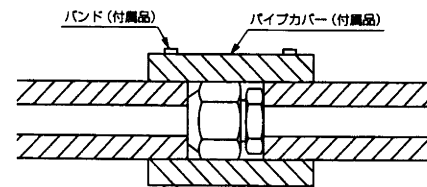
冷媒配管時の注意事項

フレアナット締付トルク

φ 6.35	: 14~ 18(N・m), (1.4~1.8kg・m)
φ 9.52	: 34~ 42(N・m), (3.4~4.2kg・m)
φ 12.7	: 49~ 61(N・m), (4.9~6.1kg・m)
φ 15.88	: 68~ 82(N・m), (6.8~8.2kg・m)
φ 19.05	: 100~120(N・m), (10~12kg・m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

- ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)
- フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。
- 配管は下記材質のものをご使用ください。
なお別売配管セットを使用されると便利です。
(材質) リン脱酸銅継目無銅管 (C1220T, JIS H3300)
- 室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
- 配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
- 配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。



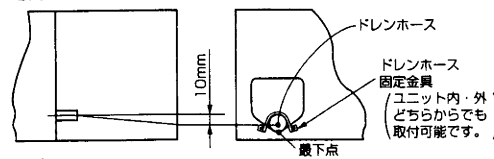
ドレン配管

- ドレン配管の取出方向は、後向き、右向き、左向きがあります。
- ドレン配管を行なう場合は、必ず付属のドレンホース、ドレンホースクランプの断熱材をご使用ください。
 - ①ドレンホースは、根本までしっかりと差し込んでください。
 - ②ドレンホースクランプは、しっかりと締め付けてください。
 - ③ドレンホースクランプを断熱してください。
- ドレン配管を左側に行う場合、本体の左側配管接続口に付いているゴム栓と断熱材（筒状）を右側接続口に付け換えてください。

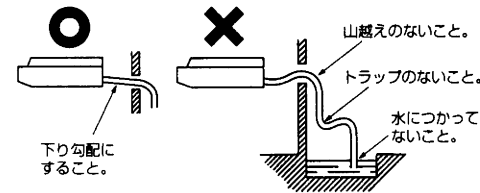
⚠ ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。

△ 注意

ドレンホースは、下図のように付属の金具を用いて、たるみ無きよう最下点で固定し、10mmのドレン勾配を取ってください。
※電気配線がドレンホースの下に入り込まないようにしてください。



⚠ ドレンホースは金具で必ず固定してください。
ドレン水がオーバーフローする恐れがあります。



配管施工後、排水が良好におこなわれていることと、水漏れのないことをご確認ください。

電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

A 電源・室内外接続線

お願い

室内外接続線は3心ケーブルを使用してください。

△ 警告

- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

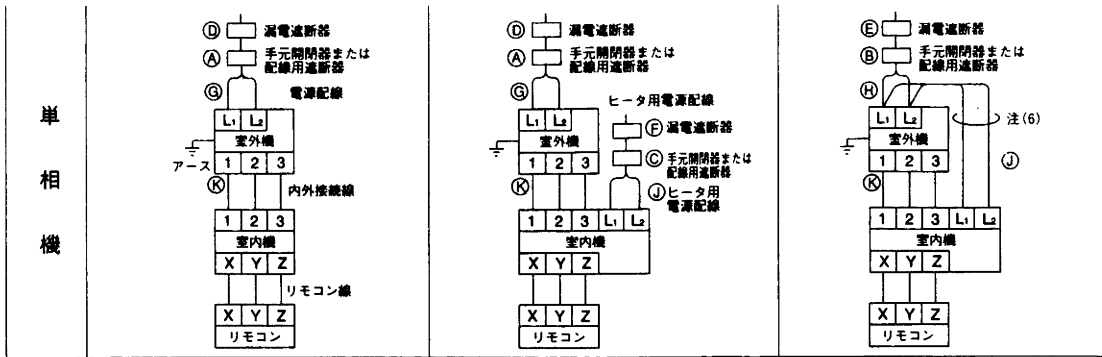
△ 注意

- アース工を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。
- 電源には必ず漏電遮断器を取付ける。
漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。
- 正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

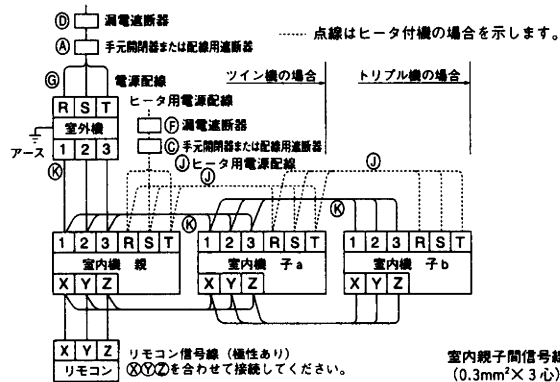
シングル機の結線

- ①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りはできません。（ヒータ用電源は除く）
※例外的な接続方法の場合は所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
- ②室内外接続線及びリモコン線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。

	ヒータレス (含む冷専)	ヒータ後付時	
		標準的な接続方法	※ 例外的な接続方法
三 相 機			



ツイン・トリプル機の結線



- ①室内親・子機間は端子台①②③及び⑧⑨⑩の同一番号間を接続してください。
- ②室内基板上的のロータリスイッチSW2により、同一冷暖システムすべての室内機を同一アドレスに設定してください。
- ③室内子機は、室内基板上的のアドレススイッチSW5-1, SW5-2により、子a～子cに設定してください。

④電源投入後、リモコンの「エアコンNo./点検」スイッチを押し、接続されている室内親・子機No.がリモコンに表示される事を必ず確認してください。

室内機の親・子設定方法

工場出荷時「親」設定		室内機			
		親	子a	子b	子c
室内基板	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
アドレススイッチ	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

開閉器・配線仕様

(シングル・ツイン・トリプル機：ヒータレス)

- 注 (1) 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
- (2) 室内外接続線(Ⓚ)は総長70mまでとしてください。
- (3) 衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。

標準機・ヒータレス	室外機	漏電遮断器 注(7)	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(1)		内外接続線 注(1)		アース線	
		定格電流	開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長		
		①	② 注(8)		③	④ 注(2)		⑤ 注(2)		太さ	ネジ
三相	単相 P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	23m	φ1.6×3	50m	φ1.6	M5
	P40～P63	15A,30mA,0.1sec以下	15A	15A	15A	φ1.6×3	29m			φ1.6	M5
	P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m			φ1.6	M5
	P112	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm ² ×3	32m			φ1.6	M5
	P140・P160	40A,30mA,0.1sec以下	50A	40A	40A	5.5mm ² ×3	23m			φ2.0	M5

ハイパワー機・ヒータレス	室外機	漏電遮断器 注(7)	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(1)		内外接続線 注(1)		アース線	
		定格電流	開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長		
		①	② 注(8)		③	④ 注(2)		⑤ 注(2)		太さ	ネジ
三相	単相 P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	23m	φ1.6×3	50m	φ1.6	M5
	P40～P56	15A,30mA,0.1sec以下	15A	15A	15A	φ1.6×3	29m			φ1.6	M5
	P63・P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	24m			φ1.6	M5
	P112～P160	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm ² ×3	24m			φ1.6	M5

〈シングル機：ヒータ付〉

注 (4) ① ② ③ ④ の仕様については上表のヒータレスと同一です。

(5) 配線こう長は、電圧降下 2% とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。

(6) 室内外接続線 (K) とヒータ用電源線 (J) は必ず別ケーブルとしてください。

(7) 電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器 (三菱電機製 NV-C シリーズまたは、その同等品) を選定してください。

(8) 漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器 (開閉器 + B 種ヒューズ) または、配線用遮断器が必要となります。

標準機・ヒータ後付時	室外機	漏電遮断器 注 (7)		手元開閉器		配線用遮断器		手元開閉器		配線用遮断器		電源配線 注 (5)		ヒータ用電源配線 注 (5)		アース線	
		定格電流		開閉器容量	B 種ヒューズ	定格電流	開閉器容量	B 種ヒューズ	定格電流	開閉器容量	B 種ヒューズ	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長	太さ	ネジ
		⑤	⑥														
単相	P40~P56	30A, 30mA, 0.1sec 以下	15A, 30mA, 0.1sec 以下	30A	30A	30A	15A	15A	15A	φ2.0×2	15m	φ1.6×2	31m	φ1.6	M5		
	P40~P56	15A, 30mA, 0.1sec 以下	15A, 30mA, 0.1sec 以下	15A	15A	15A	15A	15A	15A	φ2.0×3	31m	φ1.6×3	50m	φ1.6	M5		
	P63	20A, 30mA, 0.1sec 以下		30A	20A	20A	15A	15A	15A	φ2.0×3	24m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5		
	P80	30A, 30mA, 0.1sec 以下		30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	34m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5		
	P112	40A, 30mA, 0.1sec 以下		50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	22m	φ1.6×3	25m	φ1.6	M5		
	P140~P160	50A, 30mA, 0.1sec 以下		50A	50A	50A	15A	15A	15A	8.0mm ² ×3	26m	φ1.6×3	25m	φ2.0	M5		

ハイパインバータ・ヒータ後付時	室外機	漏電遮断器 注 (7)		手元開閉器		配線用遮断器		手元開閉器		配線用遮断器		電源配線 注 (5)		ヒータ用電源配線 注 (5)		アース線	
		定格電流		開閉器容量	B 種ヒューズ	定格電流	開閉器容量	B 種ヒューズ	定格電流	開閉器容量	B 種ヒューズ	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長	太さ	ネジ
		⑤	⑥														
単相	P40~P45	30A, 30mA, 0.1sec 以下	15A, 30mA, 0.1sec 以下	15A	15A	15A	15A	15A	15A	φ2.0×2	15m	φ1.6×2	31m	φ1.6	M5		
	P50~P56	ヒータ (オプション) 設定無し															
	P40~P45	15A, 30mA, 0.1sec 以下	15A, 30mA, 0.1sec 以下	15A	15A	15A	15A	15A	15A	φ2.0×3	31m	φ1.6×3	50m	φ1.6	M5		
	P50~P56	20A, 30mA, 0.1sec 以下		30A	20A	20A	15A	15A	15A	φ2.0×3	24m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5		
	P63	30A, 30mA, 0.1sec 以下		30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	28m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5		
	P80	40A, 30mA, 0.1sec 以下		30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	18m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5		
三相	P112~P160	40A, 30mA, 0.1sec 以下		50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	18m	φ1.6×3	25m	φ1.6	M5		

〈ツイン・トリプル機：ヒータ付〉

注 (9) ① ② ③ ④ の仕様については上表のヒータレスと同一です。

(10) 配線太さ ① は 20m までの電圧降下 (2%) を見込んであります。現地の配線が 20m を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。

(11) 室内機にヒータ装着した場合、室外機アース線太さを見直してください。

ヒータ付	室内機ヒータ 合計容量 (三相)	漏電しゃ断器	開閉器 (A)	配線太さ φmm 又は mm ² 注 (10)
		Ⓕ	Ⓖ	Ⓖ
	4.3kw 以下	15A 30mA, 0.1秒 以下	30	φ 1.6
	5.0kw 以下		30	φ 2.0
	6.9kw 以下	20A 30mA, 0.1秒 以下	30	φ 2.0
10.0kw 以下	30A 30mA, 0.1秒 以下	30	5.5	

室外形式	アース線	
	太さ φmm 又は mm ²	ねじ
80	φ 1.6	M5
112・140	φ 2.0	M5
160	5.5	M5

② リモコン

リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

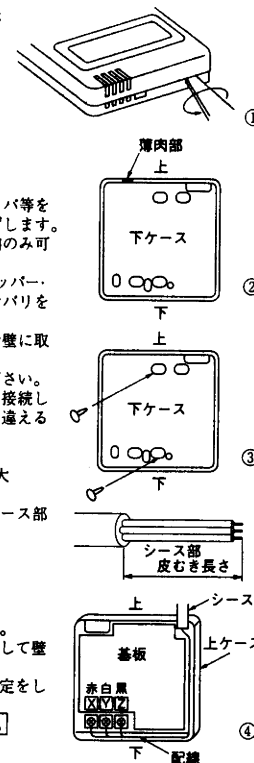
- 1) 直射日光の当たる場所
- 2) 発熱器具の近く
- 3) 湿気の多い所・水の掛る所
- 4) 取付面に凸凹がある所

取付要領

露出取付

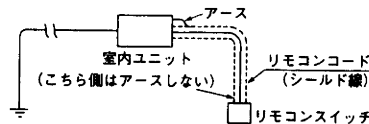
- ① リモコンケースをはずしてください。
● リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
- ② リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
● リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
- ③ リモコン下ケースを付属の木ねじ 2 本で壁に取り付けます。
- ④ リモコンコードを端子台に接続してください。
室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。
端子：①赤線、②白線、③黒線
リモコンコードは、0.3mm² (推奨) ~ 最大 0.5mm² 以下としてください。
また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。
黒：195mm
白：205mm
赤：215mm
- ⑤ 上ケースを元通りに取り付けてください。
リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
- ⑦ 室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

⑧ 機能の設定の項をご覧ください。



リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

- コードは必ずシールド線を使用してください。
 ●全形式：0.3mm²×3心【MVVS3C（京阪電線）】
 注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。
 100～200m以内……0.5mm²×3心
 300m以内……0.75mm²×3心
 400m以内……1.25mm²×3心
 600m以内……2.0mm²×3心
 ●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。



埋込取付

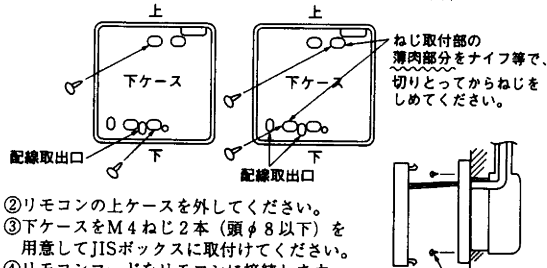
- ①JISボックスとリモコンコード
 (延長の場合はシールド線を必ず使用)
 をあらかじめ埋込んでおきます。

【使用可能JISボックス】

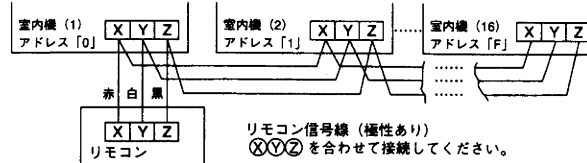
- JIS C 8336

- 1 個用スイッチボックス
 2 個用スイッチボックス

1 個用スイッチボックスの場合 2 個用スイッチボックスの場合



- ②リモコンの上ケースを外してください。
 ③下ケースをM4 ねじ 2 本 (頭φ8以下) を用意してJISボックスに取付けてください。
 ④リモコンコードをリモコンに接続します。
 【露出取付】の項をご覧ください。
 ⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
 ⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
 (E) 機能の設定の項をご覧ください。

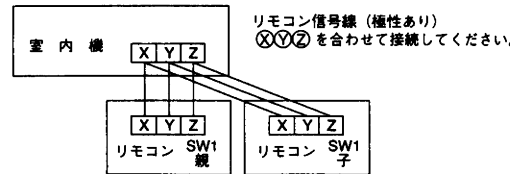


- ③電源投入後、リモコンの「エアコンNo」を押すと室内機アドレスが表示されますので、▲▼ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

D 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台 (又は1グループ) に対して最大2個までのリモコンを接続できます。

- ①子リモコンのリモコン連絡線 (3 心) は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。

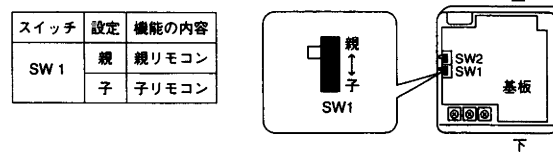


- ②子リモコンの切換スイッチSW1を子に設定してください。

工場出荷時は親設定です。

(注) リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。

親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。



- スイッチ 設定 機能の内容
 SW 1 親 親リモコン
 子 子リモコン

E 機能の設定

設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

工場出荷時、リモコンはグリル昇降無効の設定となっていますので、ラグリーナパネルご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。
 設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

本機の設定可能項目と工場出荷時の設定は下記の通りです。

- (1) リモコン機能 (2) 室内機能

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定
01	グリル昇降設定	昇降無効 有効50Hz地区 有効60Hz地区	○
02	自動運転設定	自動運転有効 自動運転無効	○
03	温度設定	温度設定有効 温度設定禁止	○
04	運転切換	運転切換有効 運転切換禁止	○
05	運転/停止	運転/停止有効 運転/停止禁止	○
06	風量調整	風量調整有効 風量調整禁止	○
07	風向調整	風向調整有効 風向調整禁止	○
08	タイマー	タイマー有効 タイマー禁止	○
09	リモコン設定	リモコン有効 リモコン無効	○
10	停電復帰設定	停電復帰有効 停電復帰無効	○
11	換気設定	換気運転 換気非運転	○
12	温度範囲設定	表示変更有 表示変更無	○
13	室内ファン速調	ファン3速 ファン2速 ファン1速	○
14	冷凍/ヒートポンプ	ヒートポンプ 冷凍	○
15	外部入力設定	個別運転 全台同一運転	○
16	エラー表示設定	エラー表示有り エラー表示無し	○
17	ループ制御設定	ループ4位置停止 ループフリー停止	○

(1) リモコン機能の⑩ループ制御設定を変更する場合は、(2)室内機能の④ループ制御設定も変更してください。

F 制御の切換

(注) □ 囲みは、工場出荷時の設定

J-1	短絡 開放	遠方電圧入力 (CnT) をレベル入力 遠方電圧入力 (CnT) をパルス入力	SW9-1 SW9-2	オートリフトパネルの 降下長の設定
J-2	短絡 開放	暖房サーモOFF時弱風 暖房サーモOFF後5分間停止し弱風	SW9-3	OFF ON 応急運転 (基板上のコネクタCnBも同時に抜く)
J-3	短絡 開放	通常運転 遠方電圧入力 (CnT) により運転制御	SW9-4	OFF ON 高天井制御 (ファン回転数アップ)
J-4	短絡 開放	暖房室温度検知補正+3℃		

C 1リモコンによる複数台室内機制御

室内ユニット最大16台まで接続可能です。

- ①各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。
 延長リモコン線については、前記の項「リモコンコードを延長する場合の注意」をご覧ください。
 ②室内基板上のロータリースイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

G 冷房試運転操作

リモコンを次の手順で操作してください。

1. 冷房試運転の開始

- ① **運転/停止** ボタンを押して、運転します。
- ② **運転切換** ボタンにより、「冷房」を選択します。
- ③ **試運転** ボタンを3秒以上押します。
「項目◆で選択」→「**セット**」で決定→
「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
- ④ 「冷房試運転▼」の表示で、**セット** ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。
表示は、「冷房試運転」となります。

2. 冷房試運転の解除

- 運転/停止** ボタン又は、温度設定 ☒ ☐ ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。
「冷房試運転」表示が消灯します。

運転データの確認

リモコン操作により、運転データの確認ができます。

- ① **点検** ボタンを押します。
「項目◆で選択」→「**セット**」で決定→「運転データ表示▼」と、表示が切り換わります。
- ② 「運転データ表示▼」の表示で、**セット** ボタンを押します。
- ③ 表示が「室内00▲」(点滅)となります。
▲▼ ボタンで、表示したい室内機番号を選びます。
(室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。)
- ④ **セット** により確定します。
(室内機番号が点滅から点灯に変わります。)
「データ読込中」(データを読込む間点滅表示)

↓
「運転データ◆」と表示され、01番のデータが表示されます。

- ⑤ **▲▼** ボタンにより、現在の運転データを01番より順に表示します。
表示される項目は右記の通りです。

※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。

- ⑥ 室内機を変更する場合は、**エアコンNo.** ボタンを押すことにより、室内機選択表示に戻ります。
- ⑦ **運転/停止** ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、**リセット** ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

番号	データ項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
04	内熱交温度1
05	内熱交温度2
07	室内ファン速度
11	室内運転時間
21	外気温度
22	外熱交温度1
23	外熱交温度2
24	運転Hz
26	低圧
27	吐出口温度
28	トール下温度
29	CT電流
31	室外ファン速度
32	静音モード有効/無効
33	63H2 ON/OFF
34	63H1 ON/OFF
35	デフォルト ON/OFF
36	コイル運転時間
37	膨張弁開度1
38	膨張弁開度2